

谷中

ひ、北は小塚原中村町、東は淺草、西は湯島本郷根津に續き、西北の間上野の地差入て最廣き地名となれり、上野町は上野の地の差出たる如く見ゆれど、左にはあらず、元來下谷の内なりしを、東の邊は元何れに屬すべしとも定めがたけれど、同じつゞきなる茅町を下谷といへば、是も姑く下谷に屬す又坂本金杉三の輪龍泉寺町の類は、元來その村々に屬する地なれど、こは當今現に下谷某町といふをもて、そのまゝ下谷に附記す、

〔新編江戸志四〕谷中

駒込と上野との谷なるゆへ下谷に對して谷中といふ成るべし、されど古名にはあらざるにや、北條分限帳にも此名あり、

〔御府内備考〕

谷中二十七

江戸志云、谷中は上野の山と駒込との谷なるなれば、谷中といふよし、又下谷に對せし言葉なりともいへりと、按に、北條役帳に、遠山彌太郎江戸屋中三十九貫文の地を領せしよし載たるは、今の谷中なるべし、此餘谷中の地名古書に未だ所見なし、

〔江戸砂子三〕淺草

花川戸 新寺町

往古武藏野より續て、すべて草深き平原なりしが、四谷大木戸の邊より櫻田邊、北は牛込本郷湯島まで山にて、又此邊平原なれども、民家所々にありて、おのづから草も淺きゆへ、淺草といへるとか、

〔南向茶話〕問曰、淺草邊の義承り度候、

答曰、淺草の名舊記にも相見へ候得共、其由來しらす、茅町瓦町居民の説、昔は瓦町にて瓦を作り候、茅町は茅の賣買をなしけるといへり、凡八丁堀の茅場町は、往古茅商賣の所なり、其後明曆年中已後、此處兩國橋向へ被移候、其後元祿初頃に、只今の本所四ツ目へ被移候由也、是は茅問屋數代商賣致候者の物語也、橋場邊の義、此地の古老物語に、いにしへ此處に橋有候故に、橋場と號しけると云、